

みえ伊勢志摩サミット推進局における現在の取組状況と今後の進め方について（報告）

平成 27 年 7 月 14 日

みえ伊勢志摩サミット推進局

【サミット総務課】

1 民間企業からの人員派遣等

7月15日付けで、民間企業から9名派遣。

43名体制に拡充（県職員28名、県警2名、市職員4名、企業9名）

組織名称「みえ伊勢志摩サミット推進局」から「伊勢志摩サミット推進局」へ変更
新事務所の開所式

- ・ 7月15日（水）10時40分から11時まで
- ・ HOWAビル津 4階 事務所（津市栄町2丁目380番地）
- ・ 8月1日付けで民間からの派遣を受け入れる方向で調整中。

※職員公募制度により選考した県職員については、8月1日付けの異動を予定

2 伊勢志摩サミット三重県民会議・部会の設置

「企画運営部会」と「事業推進部会」の2つの部会を設ける。

7月27日（月）に、第1回部会を開催予定。

3 伊勢志摩サミット市町連絡調整会議

県と29市町との連絡調整、情報共有を行うための課長クラスの会議。

7月14日（火）に、第1回会議を開催予定。

4 民間企業からの寄附金等募集について

寄附金の種類、募集方法などについて検討中。

【サミット開催支援課】

1 国の状況

(1) 伊勢志摩サミットの会場地について

三重県の提案内容

- ・ 会議場 : 志摩観光ホテルクラシック
- ・ 首脳宿舎 : 志摩観光ホテルベイスイート
- ・ 国際メディアセンター : 県営サンアリーナ

→7月14日現在、未決定。

(2) 伊勢志摩サミット準備会議

政府一丸となって伊勢志摩サミットの準備を進めるため設置（議長：杉田内閣官房副長官）。

7月6日（月）に第1回会合開催。

7月8日（水）に第1回広報部会開催。

2 宿泊関係

(1) 宿泊ブロック対応

今後立ち上げる予定の宿泊予約センターに部屋を提供いただくため、以下のとおり宿泊ブロック対応を実施。

<依頼内容>

今後、サミットのために宿泊予約を一元管理する組織（宿泊予約センター）を設置し、そこで予約、割り振り等の各種取り扱いを行う予定。

このため、以下の期間について新たな宿泊予約を受け付けないよう依頼。

- ・期間：平成28年5月9日（月）から5月28日（土）（5月28日宿泊分を含む）まで
- ・対象：各国大使館、マスコミ、一般の方等全ての予約

<依頼先>

伊勢志摩地域の全ての宿泊施設

亀山・鈴鹿市から伊勢志摩までの交通の便の良い一定規模以上のビジネスホテル

※期間については、宿泊予約センターの予約状況も踏まえ、9月末を目途に見直す予定。

(2) 宿泊予約センター

宿泊予約センター運營業務企画提案コンペの準備中。提案公募により委託事業者を決定し、8月上旬の契約を目指す。

3 配偶者プログラム

今後、地元四市町を中心に調整し、三重県からの提案内容を取りまとめる。

4 県産食材の利用促進

外務省や関係ホテル等へ提供するため、サミット向けの食材リストを取りまとめ、外務省等に働きかける。

5 ギフト

首脳夫妻及びアウトリーチ各国へ贈呈するギフトを検討する。

6 弁当供給センター

警備・消防・医療・現地スタッフ等に対し、安全で安心な食事を大量に継続して供給するため、弁当供給センターの設置に向け準備を行う。

7 ボランティア

空港等に配置する通訳ボランティアの募集・研修について検討する。

8 ドローン条例

現在、骨子（案）について検討中。（11月定例会会議での条例案提出を目指す）

9 各種会議、視察等

(1) 各種会議

(1) 伊勢志摩サミット地域連絡調整会議

伊勢志摩サミット推進局、志摩市、伊勢市、鳥羽市、南伊勢町の課長クラスの会議。
7月14日（火）に第1回会議を開催。

(2) 伊勢志摩サミット国関係機関連絡会議

国の出先機関等との連絡体制を整備するための会議。
7月29日（水）に第1回会議を開催予定。

2 視察等

(1) 知事の北海道訪問

高橋北海道知事等との面談及びサミット関係施設視察を実施予定（日程調整中）。

(2) 伊勢志摩サミット推進局事務担当者の北海道ベンチマーキング

8月上旬に実施の方向（調整中）。

【サミット事業推進課】

1 情報発信

(1) ミラノ万博等での情報発信

日本館三重県出展時（7月1日～4日）、ジャパンサローネ（7月6日、7日）等で動画、ポスター等（伊・英・仏語版）による開催決定と三重県の情報発信。

欧州ミッション終了後の動画の使用については音楽著作権料が有償の部分が一部あり、現在、曲の差し替え等について委託業者と協議中。

(2) 「みえだより」

広聴広報課が所管する「みえだより（7月19日発行）」（県内の各戸に配布。発行部数約61万部）でサミット決定及び今後の取組等を紹介。

(3) サミットPR用名刺

伊勢志摩サミットの名称及び開催日の決定を踏まえ名刺の台紙を作製。

一般職員用の名刺については、広聴広報課で調達の上、7月中旬に配布予定。（県民会議会員等には、データを送信し、活用いただく予定）

(4) プレスツアー

外務省が招へいする海外プレスツアーとは別に、県民会議主催のプレスツアーも実施。

その他、関西地域振興財団等が招へいするプレスツアーの誘致により県内各地を取材する機会を提供予定。

(5) ポスター

開催決定後の告知ポスター（第1次）を作成（7月14日完成）。第2次以降は協賛を視野に入れて検討。

(6) カウントダウンボード・看板等

7月15日の新事務所開設にあわせて、カウントダウンボードを製作。

その他カウントダウンボード、告知・歓迎看板については協賛による設置も含め検討。

(7) 三重県情報館（仮称）

三重県の情報発信や先端技術の発信のため、国際メディアセンター内のスペースを要望中。あわせて、運営方法や同館内での三重県食材の発信方法についても協議中。

2 ジュニアサミット

県内市町に開催地としての受入の意向を文書にて照会中であり、取りまとめのうえ、外務省に県内での開催を希望する旨を改めて文書で提出予定。

県立学校校長会で協力依頼済。

国の開催地決定後に、国からの参加チーム募集への応募促進や、開催時の交流事業の調整等について検討。

3 ロゴマーク

国が、小学校、中学校、高等学校等の児童、生徒を対象として募集中（応募締切9月25日）。県民会議のシンボルマークについては、募集方法の有無も含めて検討中。

4 その他イベント等でのPR

県内外での県、市町、県民会議関係団体等のPRの機会を捉えてサミット開催の情報を発信予定。あわせて、イベント主催者・出展者にはサミット開催という発信力を活用したPR展開を依頼。

5 第1回サミットフォーラム

サミット開催に向けた気運醸成のため、平成27年9月5日（土）午後、志摩市磯部生涯学習センターで開催予定。

以降、サミット開催までに2回開催予定。

旬の情報を
お届け!

みえだより Vol.4
(年3回発行)

三重テレビ7ch
+
iボタン

“県政情報”は
テレビのデータ放送でも
ご覧いただけます。

伊勢志摩サミット

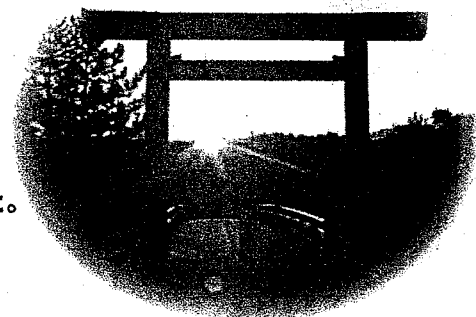
三重県での開催が決定しました!

開催日:2016年5月26日(木)・27日(金)

三重県が誇る、「日本の精神性」「豊かな文化・伝統」
「日本の原風景ともいえる美しい自然」などが世界に
発信していく価値があると評価され、

8つの候補地の中から三重県がサミット開催地に選ばれました。

日本でのサミット開催地は、これまで東京、沖縄、北海道のみ!



6月5日臨時会見にて



6月11日総理大臣官邸にて

県民の皆さんへ

三重県でサミットが開催されることは、本県の知名度の向上や、国際観光地としてのレベルアップにつながるだけでなく、地域の総合力向上にもつながる絶好の機会です。

サミット開催による効果を、一過性にせず、かつ、県全体へ波及させるため、県民一人ひとりが積極的に関わっていただき、全県的な取り組みを展開していきたいと考えています。

サミット開催まで1年もない状況ですが、6月26日に設立した「伊勢志摩サミット三重県民会議」を中心に、県民の総力を結集し、サミットの成功に向けて開催準備を進めていきますので、県民の皆さんにはご理解とご協力をお願い申し上げます。

三重県知事 鈴木 英敬

問い合わせ先

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

(三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局) 事業推進課

三重県津市栄町2丁目 380番地

HOWAビル津4階

☎059・253・5497 FAX 059・253・5498

✉summitj@pref.mie.jp

ホームページ

<http://www.pref.mie.lg.jp/miesummit/>

Facebook

<https://www.facebook.com/iseshimasummit.mie>



Twitter

https://twitter.com/summit_mie



伊勢志摩サミット三重県民会議が発足

伊勢志摩サミットの開催に向けて、受け入れ体制を確立し、官民一体で関連事業に取り組む「伊勢志摩サミット三重県民会議」の設立総会等を6月26日に開催しました。

設立総会には、産業・経済関係や観光関係、交通・運輸関係をはじめ、各界の関係者174人に参加していただきました。

第1回総会において、基本方針案が承認され、(1)開催支援、(2)おもてなし、(3)明日へつなぐ、(4)三重の発信の4つの柱に基づいて、サミット開催に向けた全県的な取り組みを展開していきます。



6月26日第1回総会

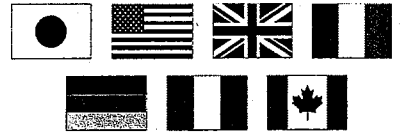


設立総会での知事あいさつ

サミットに関するQ&A

Q. サミットとは何ですか

A. 日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ (2015年サミット参加国) の首脳及び欧州委員会の委員長が参加して毎年開催される首脳会議です。



Q. サミットが開催されると何が良いの

A. 国内外にサミット開催地である三重の魅力を発信し、三重県の知名度を向上させることで、観光客の増加や経済的な効果が期待されます。

サミット開催に向けた全県的な取り組み (4つの柱)

開催支援

万全の態勢で主要国首脳会議を成功させる

公式行事に伴う歓迎交流、宿泊・輸送サービスの円滑な提供、住民への情報提供 など



おもてなし

歴史に育まれたあたたかい心で、世界からのお客様の記憶に残る「おもてなし」を行う

サミットフォーラムの開催、環境美化・清掃活動、飾花運動、おもてなし向上研修 など



明日へつなぐ

子どもたちをはじめ県民が主役となって、世界との交流を進め、三重の希望を明日へつなぐ

国際理解・国際交流などの展開、ジュニアサミット参加者との交流 など



三重の発信

美しい自然、豊かな文化・伝統など、わたしたちが誇りに思う三重を発信する

各種イベント等でのPR、ホームページやSNSでの発信、プレスツアー など



7.8.9.10月
実施!

データ放送版「県政だよりみえ」を見て

プレゼントを当てよう!

クイズ正解者の中から抽選で「みえセレクション」から選んだ賞品をプレゼント!

「みえセレクション」とは、農林水産物、食品、酒類等、特徴ある優れた産品を、独自性・信頼性について、有識者との意見交換を踏まえ、三重県が選定したものです。

7月は
みかん100%ジュース
(720ml)3本セット

(10名様) (株式会社夢工房くまの)
三重県熊野市産のみかんを使った
無添加ストレートジュースです。

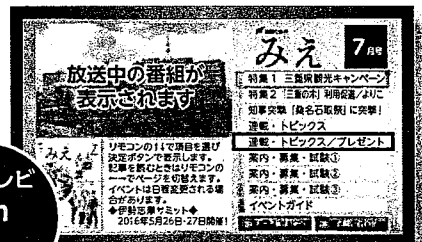


8月は
じゃこおかか煮
詰め合わせ

(10名様) (有限会社新星食品)
鈴鹿市白子港で水揚げされたちりめんと
志摩市大王町産鰯節を使用しています。



9月、10月もお楽しみに!



トップ画面から

「連載・トピックス/プレゼント」を選択する

「プレゼント企画のクイズ」を読んで、
クイズの答えを考える

はがき・メール・ファクスで応募
(データ放送を見た感想を添えてください)

※応募締め切りは毎月第4金曜日(7月は24日)です。(はがきは、当日消印有効)

紙版「県政だより みえ」を県民の皆さんの生活に身近な施設で持ち帰れるようにしています。

公共施設 ● 県施設 (県庁、県庁舎、県地域機関 ほか) ● 市町施設 (本庁舎・支所・出張所、市民センター ほか)

民間施設 ● ショッピングセンター (イオン各店、アピタ・ピアゴ各店) ● 百貨店、三重銀行、第三銀行、信用金庫の本支店 ● スーパー (マックスバリュ主要店、オークワ・プライスカット各店、ぎゅーとら各店、スーパーサンシ各店) ● 郵便局、農協各店舗 ● 総合病院 ● コンビニ (サークルKサンクス、ファミリーマート、ローソン、セブンイレブン) ※配置場所は変更になる場合があります。

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
防災対策部	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> ・消火・救急活動に関する事前調査、訓練等実施 ・県内消防本部、防災関係機関、地元市町等との連携、情報共有を図るため、それぞれの関係機関毎の連絡会議の開催、運営 ・津波避難対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催中、現地で消防、救急等の警戒にあたる消防機関の配備体制及び活動計画の策定 ・県内消防本部との連絡会議の設立 ・防災関係機関との連絡会議の設立 ・地元市町との連絡会議の設立 ・自然災害等の対策検討
	サミット開催中	消防・防災関係機関による万全の警戒体制	
	サミット開催後	特別警戒実施に係るノウハウの継承	記録誌の作成を検討
戦略企画部	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> ・サミット開催に向けた県民の気運醸成 ・本県の認知度向上・イメージアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民に対してサミット開催の認知度向上を図るとともに、県民参加意識を喚起する効果的な情報発信を行う。 ・主に国内に向けた戦略的なプロモーションを展開(ターゲティング&メディア戦略)し、本県の認知度向上・イメージアップを図る。
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がりの最大化に向けた本県の一層の認知度向上・イメージアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・サミット開催情報とともに、本県の観光・食等の魅力ある情報発信を行う。
	サミット開催後	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識の継続・拡大 ・誘致、誘客等、流入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県ファンの獲得(広聴広報アクションプラン)に取り組み、本県が期待するファンの行動につなげる。 ・戦略的なプロモーション展開を継続・発展させる。
総務部	サミット開催前	県民の日イベントについて(伊勢志摩サミット関連のものをテーマとして検討中)	
	サミット開催中		
	サミット開催後		
健康福祉部	サミット開催前	伊勢志摩サミット保健・医療対策委員会の所掌事項 <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の発生予防、拡大防止 ・宿泊施設の衛生等の確保 ・感染症の発生予防、拡大防止 ・血液、医薬品等の確保 ・毒劇物の管理状況の確認 ・救急医療体制の整備 ・水道のライフラインの確保 	左記の対応について、今後、国及び関係機関と調整
	サミット開催中	同上	同上
	サミット開催後		

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
	サミット開催前	<p>1. 外国人住民への(生活)情報提供 県民に対して発信されるサミット関連情報には、道路規制に関する情報など生活に関わる情報も数多くあることから、県内で生活する外国人住民にも周知する必要がある。</p> <p>2. 通訳ボランティア 外国人観光客など多くの外国人が伊勢志摩を中心に訪れることが期待され、通訳ボランティアの確保と必要な研修、必要な場所(駅、観光地、病院など)への配置等について検討する必要がある。</p> <p>3. 犯罪の未然防止 訪日外国人をはじめとした、県外からの交流人口の増加が予想されるが、人口10万人当たりの犯罪発生率が全国的にも高く、対策が必要である。</p> <p>4. 二酸化炭素排出量の増加への対応 訪問客の増加や活動量の増加に伴い、二酸化炭素排出量の増加への対策が必要である。</p> <p>5. 環境関連施設の適正管理の徹底 サミットや関連イベント等での利用が予想される会議場やホテル等における給排水設備等の環境関連施設の適正管理の徹底を図り、来県者に安全で安心な三重を体感していただく。 また、工場・事業場におけるばい煙発生施設、水質汚濁防止法特定施設、廃棄物処理施設等の適正管理の徹底を図る必要がある。</p> <p>6. クリーンアップ作戦、不法投棄監視体制の強化 関係団体等と連携した「クリーンアップ作戦」の実施や不法投棄等が起こらないような取組を実施するほか、伊勢湾内の海岸漂着物問題に関する情報発信を行う必要がある。</p> <p>7. 環境関連会議等の誘致 サミットの開催の機運を盛り上げ、県民の環境意識の高揚を図る必要がある。</p>	<p>1. 外国人住民への(生活)情報提供 県の多言語HPを活用して、外国人住民の母語であるポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語で、生活情報を発信する。</p> <p>2. 通訳ボランティア (公財)三重県国際交流財団など通訳ボランティアの登録・派遣を行っている団体と連携することで経験のある一定人数の通訳ボランティアの確保を行う。研修等については、今後検討を行う。</p> <p>3. 犯罪の未然防止 「安心して暮らせるまちづくり出前講座」等において、関係市町の地域住民に対し、本県の犯罪の状況等について説明を行い、犯罪の未然防止に取り組む。 また、サミットの成功に向け、テロの可能性など不審情報の警察への提供等について協力を求めていく。</p> <p>4. 二酸化炭素排出量の増加への対応 低炭素な移動手段の導入等について検討を進める。 ・公用車・サミット関係者利用車としてEV(電気自動車)やFCV(燃料電池自動車)の導入促進について検討を進める。 ・電気自動車用の充電インフラの導入を促進する。</p> <p>5. 環境関連施設の適正管理の徹底 サミット開催前における環境関連施設(水道施設等を含む。)の適正管理の推進を図るため「立入検査強化月間」を設定し、地域機関により効果的な立入検査指導を徹底する。また、工場・事業場や廃棄物処理施設等への立入検査やパトロールの徹底を図る。 これらの取組を伊勢志摩地域に限らず、全県に展開することにより企業、事業者の環境意識の高まりを促進する。</p> <p>6. クリーンアップ作戦・不法投棄監視体制の強化 「森・川・海のクリーンアップ大作戦」の取組を実施するほか、不法投棄事案等が発生しないようスカイパトロールの強化や関係団体と連携しながら監視の強化を図っていく。 また、伊勢志摩を中心とした地域で問題となっている海岸漂着物問題について、解決に向けた取組をメディアを活用して広く情報発信するとともに、イベントを活用した広報展開を実施する。</p> <p>7. 環境関連会議等の誘致 毎年開催されている環境関連会議(例:海ごみサミット)等を誘致し、サミット開催の機運を盛り上げる。</p>
環境生活部	サミット開催中	<p>1. 外国人住民への(生活)情報提供 県民に対して発信されるサミット関連情報には、道路規制に関する情報など生活に関わる情報も数多くあることから、県内で生活する外国人住民にも周知する必要がある。</p> <p>2. 通訳ボランティア 多くの外国人が伊勢志摩を中心に訪れることから、通訳ボランティアの確保と必要な研修、必要な場所(駅、病院など)への配置について検討する必要がある。</p> <p>3. 二酸化炭素排出量の増加への対応 訪問客の増加や活動量の増加に伴い、二酸化炭素排出量の増加への対策が必要である。</p> <p>4. 環境関連施設の適正管理の徹底 会議場やホテル等における給排水設備等、環境関連施設適正管理の徹底を図る必要がある。</p> <p>5. 文化施設等を活用したおもてなし 配偶者プログラム等において、文化施設等を利用し、本県の情報発信を図る必要がある。</p>	<p>1. 外国人住民への(生活)情報提供 県の多言語HPを活用して、外国人住民の母語であるポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語で、生活情報を発信する。</p> <p>2. 通訳ボランティア (公財)三重県国際交流財団など通訳ボランティアの登録・派遣を行っている団体と連携することで経験のある一定人数の通訳ボランティアの確保を行う。</p> <p>3. 二酸化炭素排出量の増加への対応 (1)低炭素な移動手段の活用について検討していく。 ・プレス向けを中心に、プレスセンターや主要駅でのEV・FCV等のカーシェアリングの導入について検討していく。 ・ピカチュウ電気バスやハイブリッドバスの活用について検討していく。 (2)増加する二酸化炭素のオフセット ・二酸化炭素削減の三重県産のクレジットを活用したカーボンオフセット(商品・サービス・イベント)を推進する。</p> <p>4. 環境関連施設の適正管理の徹底 環境関連施設(水道施設等を含む。)の適正管理の徹底を図る。</p> <p>5. 文化施設等を活用したおもてなし 配偶者プログラムやジュニアサミットにおいて、文化施設等の視察や体験等をしてもらう。 例)十二単の試着、齋宮での試掘、伊勢型紙の体験、折り鶴の体験、文化会館でのジュニア管弦楽団の歓迎演奏、四日市公舎と環境未来館の視察等</p>
	サミット開催後	<p>1. 通訳ボランティア 外国人観光客など多くの外国人住民の来県が期待され、通訳ボランティアの確保と必要な研修、必要な場所(駅、観光地、病院など)への配置について検討する必要がある。</p> <p>2. 安全で安心なまちづくり 平成30年の全国高校総体、平成33年の国体など、今後ますます県外との交流人口が増加することから、サミット開催の経験を犯罪のないまちづくりにどのように生かしていくかが重要である。</p> <p>3. 二酸化炭素排出量削減のための取組 訪問客の増加や活動量の増加が見込まれることから、二酸化炭素排出量の削減のための取組を実施する必要がある。</p> <p>4. 文化施設等の利用者増 配偶者プログラム等で利用のあった施設等については、一過性にならないよう利用者の増加を図る必要がある。</p>	<p>1. 通訳ボランティア (公財)三重県国際交流財団など通訳ボランティアの登録・派遣を行っている団体と連携することで経験のある一定人数の通訳ボランティアの確保を行う。</p> <p>2. 安全で安心なまちづくり 「犯罪から県民を守るアクションプログラム(仮称)」を平成28年中を目途に策定し、安全で安心な社会にとって新たな脅威となりつつある諸問題に県民と一体となり、対応していく。</p> <p>3. 二酸化炭素排出量削減のための取組 ・EV等のカーシェアリングが県民に定着するよう検討を進める。 ・観光局と連携し、EV等を活用した観光コースづくりについて検討する。</p> <p>4. 文化施設等の利用者増 配偶者プログラム等で利用された施設等については、その実績を活用した利用者増加策を図っていく。</p>

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
地域連携部	サミット開催前	メディアセンター建設用地の確保	地域連携部所有の伊勢志摩であい交流スクエア整備用地(まつり博跡地)約4haをサミットのメディアセンター建設のために貸付支援を行う。
		観光客・来訪者増加に対する公共交通事業者の円滑な対応及び公共交通(鉄道・バス・中部国際空港海上アクセス等)の利用促進	公共交通事業者と密接に情報共有を行い、連携して取り組む。
		・携帯電話(ドコモ、KDDI、ソフトバンク)の不通話地域の解消(エリア拡大) ・携帯電話(ドコモ、KDDI、ソフトバンク)の回線容量の確保 ・情報漏えい等サイバーセキュリティ対策の強化 【参考】 ・サミット推進局事務所の支援	・想定される移動ルート、訪問先を中心に、不通話地域の解消や回線容量の拡大を要望 ・県の各種サイバーセキュリティ強化策の検討 ・サミット推進局仮事務室スペース及び回線等の提供(7Fサーバ室) ・サミット推進局向け県行政ネットワークの設計、敷設(HOWAビル津) ・一人一台パソコン追加配備
	市町の地方版総合戦略への反映と地方創生の取組の充実	6月末から実施している市町訪問時に取組状況等をヒアリングし、サミット開催後も見据えた新型交付金を活用する取組を提案	
	サミット開催中	メディアセンター建設用地の確保	地域連携部所有の伊勢志摩であい交流スクエア整備用地(まつり博跡地)約4haをサミットのメディアセンター建設のために貸付支援を行う。
		公共交通(鉄道・バス・中部国際空港海上アクセス等)の利用規制に対する来訪者の理解の促進	公共交通事業者と密接に情報共有を行い、連携して取り組む。
サミット開催後	観光客・来訪者増加に対する公共交通事業者の円滑な対応及び公共交通(鉄道・バス・中部国際空港海上アクセス等)の利用促進	公共交通事業者と密接に情報共有を行い、連携して取り組む。	
地域連携部スポーツ推進局	サミット開催前	・施設の使用制限 ・知名度を活かしたスポーツイベント等の増加	・各競技団体主催の大会に影響が出ていないか調査。調査結果をもとに大会の日程、会場を調整する。 ・知名度を活かしたスポーツ大会、イベント誘致等の促進、支援
	サミット開催中	・施設の使用制限	・各競技団体主催の大会に影響が出ていないか調査。調査結果をもとに大会の日程、会場を調整する。
	サミット開催後	・知名度を活かしたスポーツイベント等の増加	・知名度を活かしたスポーツ大会、イベント誘致等の促進、支援
地域連携部南部地域活性化局	サミット開催前	・海外プレスを活用した情報発信 ・南部地域への効果の波及	・国、県が実施するプレスツアー等において、熊野古道をはじめとした南部地域の魅力を情報発信。 ・南部地域活性化基金を活用した市町が連携して行う誘客促進の取組やふるさと納税の一体的な情報発信等において、サミット開催を踏まえた相乗効果が得られるよう具体的な手法を検討中。
	サミット開催中	・海外プレスを活用した情報発信	・プレスセンター等における積極的な情報発信。
	サミット開催後	・訪日外国人客の増加 ・国内旅行者の増加	・熊野古道センターにおける音声案内、サインの多言語化 ・熊野古道パンフレットの多言語化 ・市町が連携して実施するサミットを契機とした国内外からの誘客促進の取組に対する支援
農林水産部	全体	・国内外における県産農林水産物の知名度向上を図る必要 ・豊かな自然環境をPRするとともに、確実な保全につなげていく必要 ・県内の豊かな自然を“体験”という手法で活用し、国内外への発信により、県内への誘客につなげる必要 ・国内外からの県内誘客などを通じて食の産業振興につなげる必要	・部長直轄の『伊勢志摩サミット』対応チームを設置(7月1日発足)し、今後の取組について検討を開始した。(下記の取組等についても詳細を検討) ・サミットの開催を契機として、地方創生にもつながる食の情報発信や自然環境の保全に向けた取組について、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)上乗せ交付分の活用を検討している。
	サミット開催前	・部の職員全員がPRスタッフとなって、県産農林水産物の情報を積極的に発信する必要 ・サミットで提供できる県産農林水産物(食材)の棚卸しが必要 ・サミット開催と関連付けて県産農林水産物の情報を発信する必要 ・県内の自然の魅力を発信するとともに、道沿いや伊勢志摩国立公園内などの景観整備が必要	・部職員全員がPRスタッフとなって、県内外のレストラン等に県産農林水産物を紹介する。 ・サミットに提供できる県産農林水産物(食材)のリストアップ(出荷量、生産者、機能性、物語性などの情報整備)を行う。 ・県産食材のリストなどを政府関係者や地元ホテルなどに紹介する。 ・サミットと関連付けた県産農林水産物に関わるトピックを随時発信する。(サミット会合等で出される料理メニューへの県産食材の活用状況等) ・プレスツアーなどの実施に向け、活用できる三重の食材や先進性のある農林水産物の視察先について選定する。 ・県内の自然体験情報など自然の魅力を発信する。 ・伊勢志摩国立公園内の森林整備と公園施設の改修等を行う。
	サミット開催中	・サミット首脳夫妻、随行者、プレスなどすべての関係者に県産農林水産物の魅力や文化・歴史などをできる限り伝える必要 ・サミット会合などで使用した県産農林水産物の食材情報(生産地や生産者、入手先情報)などをタイムリーに発信する必要	伊勢茶のPRに向け、野点(のだて)の設置を検討する。また伊勢茶に合う県産食材で作る和菓子の開発・選定についても検討を進める。 ・サミットで使用された食材、配偶者プログラム、プレスツアーで廻った地域農林水産業や自然環境に係る情報等のトピックを随時発信する。
	サミット開催後	・サミットで活用された県産農林水産物など食材の情報を、歴史や文化、機能性などを含め、食の関係事業者に適宜提供する必要 ・国内外へのさまざまな情報発信を通じて、県内農林水産業や県産食材の知名度を向上させ、県内への誘客を促進する必要 例えば、 1) 県内の高級な和食料理店と県産食材とをセットにして、情報発信 2) 県内の自然の魅力を“体験”という活用手法で積極的に発信 3) 産業ツーリズムとして、県内の先進性の高い農林水産業の現場情報を発信	引き続き、部職員全員がPRスタッフとなって、県内外のレストラン等に県産農林水産物を紹介する。 ・県産農林水産物(食材)の出荷量、生産者、機能性、物語性など最新の情報を載せたPR冊子を作成し、食関連事業者等に配付する。 ・伊勢茶と県内高級和食店をセットにした情報発信とともに、伊勢茶のトレーサビリティの構築と海外販路の開拓を進める。 ・県内の自然体験情報などの発信とともに、自然体験ツアーの企画・販売、体験プログラムの磨き上げ支援やリーダー人材の育成に取り組む。 ・県内の先進的農林水産事業者の現場などを視察・体験する産業ツーリズムの情報発信について検討する。

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
雇用経済部	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 水素技術のPR 「三重テラス」及び「関西事務所」での伊勢志摩地域の紹介を含む「伊勢志摩サミット」のパンフ及び事前告知のパンフなど国内外へ発信(外国語版を含む)が必要 「三重テラス」で販路拡大をはかっている県産品の「伊勢志摩サミット」での使用可否の問合せ(公式晩餐会、プレスセンターなど) ものづくり推進課の事業領域における伊勢志摩サミットのPR 伝統工芸品、地域資源を活用した地場産品の商品開発・販路開拓支援、気運づくり 	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ、ホンダ、東芝等の連携について検討 首都圏営業拠点「三重テラス」を紹介する多言語化パンフの作成 首都圏在住の外国人及び外国メディアなどを対象とした三重のゆかりめぐり・都内ツアーの実施 みえリーディング産業展2015での、サミットPRへの協力 様々な事業者からの販路開拓要望に対して、関係部局へ情報共有するとともに適宜サミット推進局と連絡調整を図る。
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> 水素技術のPR 「三重テラス」及び「関西事務所」での伊勢志摩地域の紹介を含む「伊勢志摩サミット」のパンフ(外国語版を含む) 「三重テラス」で販路拡大をはかっている県産品の「伊勢志摩サミット」での使用PR(公式晩餐会、プレスセンターなど) 三重県内の優れた加工技術など製造業企業の情報発信を目的に、製品と製造現場を併せた情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ、ホンダ、東芝等の連携について検討 首都圏営業拠点「三重テラス」を紹介する多言語化パンフの作成など 会場における製品展示や製造現場の見学等実施の可否 製品や企業の選定方法 効果的な展示やPR方法 現地見学等の受け入れ可否等についての検討
	サミット開催後	<ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸品等の情報発信を目的に、商品と製造現場を併せた情報提供の取組 サミット開催後の三重(伊勢志摩)への継続的な誘客対応策の早期確立が必要 認知度の向上に向けた継続的な需要喚起の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏営業拠点「三重テラス」を紹介する多言語化パンフの作成など サミット前、開催中を通じた取組を踏まえた効果的な実施方法についての検討
雇用経済部観光局	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> おもてなしの充実 サミット開催期間前後におけるホテル・旅館等の宿泊制限 マスメディアがストレスフリーで報道できるような環境整備(対応が悪いと、マイナスイメージを伝播する報道になる可能性がある) ポストサミットの訪日外国人客の増加 	<ul style="list-style-type: none"> みえのバリアフリー観光推進事業 バリアフリー観光の案内機能の強化 バリアフリー観光コンシェルジュ研修の開催(3回) 県内におけるバリアフリー観光の機運醸成 三重県バリアフリー観光推進大会の開催(9月4日) 三重県のバリアフリー観光情報の発信 「みえバリ」による情報発信(県外3回他) * 英語によるバリアフリー情報の提供(NPOにより準備中) サミット推進局からの施設側、観光関連事業者等に対する説明 宿泊制限期間等の早期明示 プレスキットの早期作成・配布 外国語対応スタッフの準備 海外誘客受入環境整備支援(海外誘客促進環境整備補助金) 海外旅行口コミ情報サイトと連携した外国人おもてなしプロジェクト みえ外国人旅行者旅行券事業(3Eキャンペーン) 海外ゴルフツーリズム誘致
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> サミット開催期間前後におけるホテル・旅館等の宿泊制限 マスメディアがストレスフリーで報道できるような環境整備(対応が悪いと、マイナスイメージを伝播する報道になる可能性がある) ポストサミットの訪日外国人客の増加 	<ul style="list-style-type: none"> サミット推進局からの施設側、観光関連事業者等に対する説明 宿泊制限期間等の早期明示 プレスキットの早期作成・配布 外国語対応スタッフの準備
	サミット開催後	<ul style="list-style-type: none"> 日本一のバリアフリー観光県としてのブランド化 国内旅行者の増加 ポストサミットの訪日外国人客の増加 	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー観光情報を更に充実させるとともに、関係者のネットワークの拡大を図り、2017 全国菓子大博覧会 2020 東京オリンピック・パラリンピック 2021 三重国体・全国障害者スポーツ大会 に向けて、「日本一のバリアフリー観光県」としてのブランド化を図る。 三重ファンのリピーター確保 観光の産業化の取組み推進 海外MICE誘致促進 富裕層・欧州市場誘客促進 海外ゴルフツーリズム誘致 海外誘客受入環境高度化支援

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
県土整備部	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 会場周辺、移動経路及びプレスセンターとなる三重県営サンアリーナ周辺(以下「関係地域」という。)に係る、主催者や警備担当者からの景観、安全や警備上の要請による施設整備に必要な予算と整備期間の確保 【具体例】 (道路関係) <ul style="list-style-type: none"> 英語表記の道路案内標識、照明、ガードレール取替、舗装修繕、区画線補修、改良、修繕、橋梁点検、除草、ゴミ除去ほか (河川関係) <ul style="list-style-type: none"> 鉄道車窓や道路から見える河川の除草、ゴミ除去、鉄橋下等の除草ほか (港湾・海岸関係) <ul style="list-style-type: none"> 修繕、除草、ゴミ除去ほか (公園等公有施設) <ul style="list-style-type: none"> 除草、ゴミ除去ほか 関係地域における安全確保のための工事中箇所の対応 警備、景観上支障となる不法占用物等の対策 景観上支障となる許可占用物等(看板など)の対策 サミット関係者の港湾利用による一般利用者への利用制限 施設整備の要請と整備状況報告の仕組み 【参考】洞爺湖サミットを参考とした試算 <ul style="list-style-type: none"> 事業費 60億円～100億円 整備期間 約8か月 港湾施設の利用調整統括(警察、保安部、外務省、米国等の利用)[施設管理者では優先順位が判別不可能] 	<ul style="list-style-type: none"> 部内対策チームの立ち上げ 情報発信と収集および進捗状況把握等の一元化 警察、海上保安部等との窓口確認 移動経路など施設整備の必要な区域情報 パトロール体制に関する情報 現状調査と施設整備の準備作業 調査項目、整備内容の選定 必要経費の算出 必要な工事期間の算出 市町との情報共有と連携 洞爺湖サミット当時の情報入手 北海道開発庁、北海道庁など
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> 関係地域のパトロール体制の確立 対象施設:道路、河川施設、港湾海岸施設、公園等 頻度・手法:情報収集中 建設業者による緊急保全体制の確立方法の検討及び業者への支援 必要予算:試算中 【参考】 洞爺湖サミットでは、10分以内に現地に到着できる体制が取られた。 港湾施設の一般者利用調整 24時間警備にあたる職員の宿泊や待機場所、(時間外費用)の確保 	
	サミット開催後	<ul style="list-style-type: none"> 仮設対応施設の撤去・復元 サミット期間中一時中止や延期した占用(電気、通信、水道、ガス等)工事等の再開調整 次回の日本でのサミット開催に備える記録簿作成 	
企業庁	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 水道用水の安全確保の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 水道施設の安全確保(設備管理、施設警備、運転監視)の強化 非常事態発生時の想定、訓練 警備体制の強化 緊急時に備えた資機材等の確保
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> 水道用水の安全確保の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 水道施設の安全確保(設備管理、施設警備、運転監視)の強化 非常事態発生時の対応体制 警備体制の強化
病院事業庁	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 今後開催される伊勢志摩サミット推進本部保健・医療対策委員会の構成メンバーとして、的確な緊急医療対策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> (志摩病院) <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者である地域医療振興協会本部に、今後、明らかになる具体的な対策への協力を要請するとともに、志摩病院の管理者に対して院内周知を依頼した。 (他病院) <ul style="list-style-type: none"> 今後、明らかになる具体的な対策への連携を要請するとともに、院内周知を依頼した。
	サミット開催中		
	サミット開催後		

部局名	時期	主な課題の概要	現在検討(又は実施)している取組・対策等
教育委員会	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 国など関係機関との窓口の一本化(全庁課題) 学校の取組支援 市町等教育委員会との連絡調整及び支援 	1先行事例などサミット開催に係る関係情報の収集 (北海道教委、外務省、ユニセフ) 2サミットロゴマーク募集の周知 (県立学校、各市町等教育委員会(小中学校)) 3サミット対応に係る事務局内ワーキング・グループの設置 4関連イベント等の検討 ・サミットのメインテーマに即したものの ・グローバル人材の育成、国際理解の向上に資するもの (1)教育委員会主催の取組 小中学生や高校生によるサミットの開催 (2)国・県や県民会議等と連携した取組 ジュニアサミット(主催:外務省、ユニセフ)参加者との交流、 飾花運動への協力 (3)関係小中学校における取組 市町教委と連携した一校一団運動、 授業・教材等への活用・反映
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組支援 会場周辺の学校の対応及び支援 	
	サミット開催後	<ul style="list-style-type: none"> サミットの経験を生かした取組の全体的な展開 	<ul style="list-style-type: none"> 授業・教材等への活用・反映(再掲) サミットの経験を生かした具体的な取組 (国際地学オリンピック(平成28(2016)年)やインターハイ(平成30(2018)年)等への対応)
警察本部	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> 道路交通環境の整備 地域住民に対する交通規制情報等の事前広報 	<ul style="list-style-type: none"> 監視用テレビ、交通情報板等交通安全施設の整備 住民説明会や各種広報媒体を活用した事前広報の実施
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> 交通規制の実施 円滑な交通規制を実施するための交通総量抑制対策等 	<ul style="list-style-type: none"> 各種広報媒体を活用した規制情報の周知徹底 信号機、道路標識等の保守、緊急修繕体制の確保
	サミット開催後		
東京事務所	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> ○外務省及び関係省庁等との円滑な連絡調整等 ・県民会議事務局と国・関係機関との協議・情報交換時のアポ及びアテンド ・特別職、幹部職員等の関係先訪問時のアポ及びアテンド ・サミット参加国在京大使館への表敬アポ及びアテンド(宿泊地・行動予定等の情報収集等) ・伊勢志摩サミット準備局や外務省関係各課からのオーダー・情報等の県民会議等への伝達 ・県選出国会議員・官邸等からの要請等への対応 ・三重県から伊勢志摩サミット準備事務局へ派遣された職員へのフォロー 	○伊勢志摩サミット県民会議事務局(伊勢志摩サミット推進局)及び関係各部署との普段からの情報共有・意見交換の実施、役割分担の明確化
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> ○首都圏における情報発信等 ・三重テラス等と連携したサミット関係情報のPR ・在京の報道機関等へのサミット関連情報等の発信に関する支援 	
	サミット開催後	○サミット開催を契機とした首都圏における情報発信	○首都圏営業拠点「三重テラス」、移住相談窓口「ええとこやんか三重 移住相談センター」等と連携し、国内外での知名度向上などサミット効果を十分に生かした情報発信等に努め、首都圏における三重県への観光誘客、県産品等の販路拡大、移住促進などにつなげる。
関西事務所	サミット開催前	<ul style="list-style-type: none"> ・地の利がある関西圏は、定番の観光地の認知度も高く、来訪者も全体の約3割を占め、サミット開催効果を最も受ける地域であるが、訪問ルートが恒常化している傾向にある。 ・食に関して、三重県は関西圏近郊であるにもかかわらず、より遠隔地である九州や四国などの他産地に比べ存在感が薄い。また、「高知のカツオのたたき」といったような、地域と産品の結びつきを強くイメージさせる商品が浸透していない。 ・在阪のマスコミや旅行エージェント、食のプロ(シェフ、バイヤー)などからは、観光地や食材などの点(単体)の情報でなく、その背景にある地域の文化や歴史、関わる人の魅力なども含めた複合的な情報発信を求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業においても、伊勢志摩サミットを関連付けることで、注目度を高め、三重県への関心を高め、消費者の需要喚起、購買意欲の向上を図る。 例)ラジオ、新聞等で“伊勢志摩サミット開催決定”を冠につけたPR トラベルガールズフェスタ等、出展予定のイベントで伊勢志摩サミットと関連づけたPR 三重の自然や食材を紹介する講座の開催等 ・年明け(3月頃)には、見込み客の囲い込みを図るため、「食」「自然」「文化」「歴史」などの複合的な情報発信を行う、在阪企業と連携した事業を実施し、サミット後を見据え、イベント参加者の顧客リスト化、関西圏における具体的なニーズの取り込み、三重ファン層の拡大を図る。(※予算要求予定)
	サミット開催中	<ul style="list-style-type: none"> ・サミット関係の情報(訪問地、利用食材等)について、情報開示の時期、問い合わせ先等窓口の一元化 	・テレビ等で情報発信された際の問い合わせに対応できるよう、県庁関係課との情報共有
	サミット開催後	サミット開催後の観光、食材等の需要拡大への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのアクションで得られた情報を活用した営業展開 例)イベントやファミツアーに参加した旅行エージェントに対して、関西圏向け旅行商品や再現ツアーの売り込み イベントに参加した食のプロに対して、イベント時に把握したニーズを満たす食材の売り込み 生産者訪問現地ツアーの実施 イベント協力いただいた在阪企業等のネットワークを使った新たな顧客の取り込み

実施項目	平成27年							平成28年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
1. 体制	推進本部・県会議の開催	・推進本部設置(第1回本部会議)(6/26) ・県会議設立(設立総会・第1回総会)(第1回役員会)(6/26)	・第2回本部会議(14日) ・部会設置(27日)	事業の進捗状況に応じて定期的に開催(必要に応じて委員会・ワーキングを設置)								
	国、市町との連絡調整		・伊勢志摩サミット準備会議 ・関係市町連絡調整会議(14日) ・地域連絡調整会議(14日) ・国関係機関連絡会議(29日)	準備の進捗状況に応じて随時開催								
	現地事務所								秋以降に、設置予定			
2. 開催支援	首脳等の移動・宿泊、配偶者プログラム、輸送、歓迎行事等				外務省等と連携・調整のうえ対応							
	情報・通信含むインフラ				外務省等と連携・調整のうえ対応							
	プレスセンターの設置				外務省等と連携・調整のうえ対応							
	インフォメーション対応、ボランティアの募集・研修											
	宿泊予約センターの設置				運営事業者を公募し設置							
	弁当供給センターの設置								事業者を公募し設置			
	住民懇話会の開催								住民懇話会の実施			
3. おもてなし	サミットフォーラムの開催			フォーラム(第1回)			フォーラム(第2回)				フォーラム(第3回)	
	おもてなし向上研修の実施		カウントダウンボード				カウントダウンボード(企業協賛等)					
	環境美化・清掃活動、飾花運動						おもてなし研修の実施(宿泊施設等)				飾花(プランター設置等)	
	県民おもてなし運動等						環境美化(清掃)・飾花運動等の展開					
4. 明日へつなぐ	県内学校、民間団体等による国際理解・国際交流などの展開		県民の国際理解 国際交流 おもてなし 情報発信事業									
	ジュニアサミット参加者との交流など			ジュニアサミットとの連携事業(詳細未定)		参加チーム募集(時期未定)		歓迎・交流プラン検討		受入・交流事業		
5. 三重の発信	協賛・応援事業											
	県内各種イベント等でのPR											
	ホームページ、SNSでの発信											
	ポスター、リーフレット、チラシ等によるPR											
	三重情報館(仮称)											
	シンボルマークの募集											
	プレスツアーの実施											
海外ミッション等の機会を利用したPR												

開催地の決定
5日

サミットの開催
26・27日